

市長記者会見記録

日時：2020年3月4日（水）14時00分～14時28分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《新型コロナウイルス関連について》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。

本日の議題は市政一般となっております。

早速、質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【幹事社】 よろしくお祈りします。

新型コロナウイルスへの御対応について伺いたいと思います。

今日までにオリンピックの聖火リレーのコースの関連ですとか、あと都庁では検温を来庁者に求めるなど、ちょっと対応が様々広がっております。市内では、まだ患者はこれまでに確認されてはいないんですけども、今日までの市内での御対応について、もし、これまで発表いただいていないものがありましたら、お伝えいただきたいと思っております。

【市長】 発表していないものって、特にはないと思いますが、今日から正式に学校の臨時休校が始まっており、いわゆる居場所ということで開設しています。その状況について、申込状況を大体に把握しておりますので、そのことをお話しさせていただいてよろしいでしょうか。

申込状況なんですけれども、小学校ですと全体の約15%。これは全ての小学校をトータルした平均という形で御理解いただきたいんですけども、約15%で、1校当たりの平均は約100名ということでございますので、最小が21人、最大で236人ということで、各学校によって相当ばらつきがございます。わくわくプラザに登録している児童というのは、これもならしての数ですけど、約48%ということでもありますので、それからすると、今回15%ということですから、極めて趣旨をよく御理解いただいて、冷静な対応していただいているなというのが感想でございます。

中学校は全体の1%ということで、1校当たり1人か2人ということでございます。

高校生も、本当に各校数人ということでありまして、特別支援学校は、やはり、当

初、私たち想像していたのよりも少ない数でありますけれども、全体の25%となっております。これも各校によって少しばらつきはありますけれども、日によっても違いますが、大体40名から50名程度の方が利用されると把握しております。

【幹事社】 ありがとうございます。

あと、学校、今後、登校日を設けて卒業式をやるですとか、対応もあると思うんですけども、成績表については、まだ対応というのは決まってなさそうでしょうか。

【市長】 それでは、教育委員会からでもよろしいでしょうか。

【幹事社】 はい。

【教育委員会事務局学校教育部長】 質問をもう一度お願いします。

【幹事社】 成績表を…。

【市長】 成績表の対応について。成績表を出すのかという。それは学校、登校日にお渡しするという形。

【教育委員会事務局学校教育部長】 学校で対応はまちまちでございますけれども、例えば、最終日の25日に登校日を設けて、お渡しするような学校もあると聞いております。

《返子市の斜面崩落事故関連について》

【幹事社】 ありがとうございます。

あと、先月までに、崖崩れの関係で、2月中に調査を終えられると伺っておりました。結果、もし現状でお伺いできることがありましたら伺えればと思います。

【市長】 この前の会見でも、2月中にはとお話ししておりましたが、実は若干済みでおりませんで、作業は継続しております。

市内に調査する予定の1,200か所ございますけれども、そのうち約800か所が調査済みでございます。残り約400か所で、残っているのは多摩区、麻生区、この2区は残っておりますけれども、それ以外のところは終了しております。

なお、多摩区、麻生区にあっても、通学路だとか緊急輸送道路に面しているところは既に調査を完了しているところがございますで、残り少し、多摩区、麻生区、数が多いということで、それと民地をちょっと介しているところもあるということで、そういったところは訪問して、いらっしゃらないと、また再度訪問してということで、若干時間が長引いているようでございますけれども、現在、そのような状況でございます。

【幹事社】 ありがとうございます。

《新型コロナウイルス関連について》

【幹事社】 今日担当が休みなもので、ちょっと代役で。

新型コロナの関係で、今日から休校が始まったというところで、もしかすると市の職員の方の中にも、お子さんを育てる中で、休みたいという方もいらっしゃるかもしれないんですが、今日現在、市民へのサービス業務とか、影響が出ているというふうに把握されているようなことがあるかないかというのを。

【市長】 ええ。最初、この27日の一斉休校の要請があったときには、例えば、どのぐらい影響出るのかということで、例えば、市立病院の関係で、どのぐらい出るとかといったら、やっぱり1割を超えて出てくるのではないかという危惧がございましたけれども、こういった市の措置で、基本的にそれは解消しているということでございますので、特段大きな影響が出ているとは思っておりません。

《返子市の斜面崩落事故関連について》

【幹事社】 あと、すいません。今、ちょっとお話が出た崖崩れの調査、今まで800か所、3分の2終わられているということなんですが、これまでに既に問題があるといえますか、対応が必要な地点というのは出てきているのでしょうか。

【市長】 若干、擁壁のところの鉄骨が露出しているとか、それから小さなクラックが発生しているもの、あるいはその法面のところで樹木が傾いているとか、そういったところというのは幾つか発見されているというところでありましてけれども、これは継続的にパトロールしていくということでございますし、また、民地のところについては、しっかりと指導していくと聞いております。

【幹事社】 ありがとうございます。

【幹事社】 各社さん、お願いします。

《令和元年東日本台風関連について》

【記者】 じゃあ、すいません。

昨日の代表質問の中で、例の台風の関係、浸水被害の関係なんですけれども、台風前に国から来ていた通達というものが適切に情報共有されなかったということも報告がありました。率直に市長は、こういう状態だったということ、どのタイミングで御存じだったのかということと、何でこういうことになってしまったのかということ、もし、わかる範囲でお伺いできればと思うんですが。

【市長】 まず、このメールのやりとりがあったということを知ったのは、12月の議会の質疑の中で把握をいたしました。

加えて、担当のところからも、ちゃんと説明できていないんだと思いましたし、昨日の質疑のところも、改めて私も確認させてもらいましたけれども、あのやりとり聞いていますと、いかにも、あの国交省からの河川の管理者に対するメールが上下水道局のほうにいていなかったことが、その門の樋管の開閉に影響してくるという印象が、私もとりましたけれども、決してそういうことではなくて、あくまでも今回、メールのやりとりで起こっているのは文書管理上の問題だと捉えております。

中身を見て私も確認いたしましたけれども、直接的に、これが今回の上下水道の樋管の開閉のことにつながるかということ、そうではないだろうとは思っております。また、そのように上下水道局も認識していると思います。

ただ、改めて、文書管理上の問題として、送ったことに対して、見ていないとか、あるいはそこがどうなっているかよくわからないということは、あり得ない話でありますので、そこはしっかりと徹底していかなくちゃいけないと思っています。それは上下水道局だけではなく、全ての局が当たり前の、公文書を扱っているところとして、当然の文書管理のあり方だと思っています。そこは反省しなければならないと思います。

【記者】 直接の文書の宛て先では上下水道局はなくて、河川課から転送されてきた形での文書というものですけれども、さりとて、国からの通達というものが軽易な文書と同じ扱いをされているというのは、ちょっと私には理解に苦しむところもあって、電子記録も含めて、公文書のあり方というのが、かなりちょっとまずいんじゃないのかという印象をととても強く持ちました。

なぜそういうことになったのかということ、おそらく最終報告の中に入ってくるんだろうと思いますが、それを果たして、これも繰り返しになるんですが、庁内の検討会議、検討委員会で、そこ、なぜこういうことになったのか、それはどういう問題をはらんでいるのかということ、位置づけて議論して、再発防止とかを立てられるものなんだろうかと。

【市長】 今回の話の、ちょっと繰り返しになってしまいますが、今回のメールを正しく読んで、当日、理解したとしても、これ、おそらく対応というのは変わっていませんでしたということだと思いますので、これの検証をいくらしても、特に何かがあるわけではないと思いますので、直接的に、この検証委員会にかけるような案件かということ、僕はちょっと違うような気がします。

一方で、全庁的な文書管理のあり方としては、これは問題の話ですので、それは改めてしっかりと、こういうことを教訓にして、全庁的に示していかなくちゃいけないと思っていますので、それは検証委員会とは別途、しっかりと徹底したいと思っています。

【記者】 なるほど。わかりました。

おそらく対応は変わってなかったというのが、台風前の6月に来ている通達のタイミングでは、例えば、その操作手順の改正というものには間に合っていなかったらうと、そういうことでしょうか。

【市長】 いや、そういうことではないですね。あくまでも河川の考え方と下水道の考え方というのは、相当、やはり、ちょっと、私も含めて、素人的に見ると、同じ河川に面している門からすると一緒じゃないかと思われるのは、ある意味、普通に考えれば当然だと思います。一方で、下水というものと河川の考え方って相当違うと。そもそもの考え方が。ということを見ると、むしろ、読ませていただきましたけど、なぜこれを下水道のところ参考資料として送ったのかなと思うぐらいで、私も素直に国からの文書を読むと、水防活動に関係ある人たちといったところで、上下水道局に送ったこと自体が、ちょっと、うん？ という、そういう印象は受けております。多分、国交省も、発出したほうとしても、その認識はないんじゃないかなと思いますけど、それは確認したわけではないですけども、素直に読むと、下水道局？という感じはします。

【記者】 なるほど、なるほど。

ただ一方で、批判的に見ていらっしゃる方の中には、国から事前にそういう通達が出ていたのに、なぜあの対応だったのかということとちゃんと検証するべきじゃないかとおっしゃる方もいらっしゃって、そういう方に対して、今回のこのやりとりも含めて、どういう形で報告をまとめるんだらうかというのが、ちょっと私には見えてこない部分があります。

【市長】 これって担当の下水道局がメインになると思いますが、ちゃんと説明しなくちゃいけないと思いますね。何がこの文書に書かれていて、どういうことなのかということを説明せずに、文書のやりとりが途切れていたということになると、あたかも本当に大切なことが、下水道の門の開閉のことについて書かれていて、それを怠ったかのような印象を受けてしまうというのは、これは誰にとっても正しくない情報をもとにした判断ということになってしまいますので、正確な情報というものを、しっかりとお示ししていく。議会の中でもそうですし、被災された市民の皆さんにも特に

でありますけれども、そのところはしっかりと説明しなくちゃいけないと思っています。

【記者】 なるほど。わかりました。

その文書管理のあり方というのですけれども、そもそもルールが、ちゃんと公文書管理規則というのを、上下水道の場合、規程ですけど、保存年限というのがある、ただ、それも一個人の判断次第で削除できてしまうというようなことも、今回、あ、そういうものなんだなということを、私もちょっと驚いてはいるんですが。

今回、バックアップはとっているようなんですけど、この話、どこまで。公文書のあり方でよくなかったということも先ほどもおっしゃいましたが、どこまで検証されるおつもりですか。何でこんなことになったのかと。

【市長】 まずシステムとして、もう一回確認して、どこまでのものを、どこまでとっておくのかということの改めて確認と、そして、削除する場合、どういう規程でもって削除するのかを確認するというので、誰が、誰の管理のもとで、ということをししっかりと確認して、その上で文書管理の方法というのを改めて徹底したいと思っています。

【記者】 これはいつまでにどうするかということは、何か時期を切っているものでしょうか。

【市長】 早急に、それをやらなくちゃいけないと思います。毎日のような作業ですので、いつ大切な情報がそうになってしまってもおかしくないということを露呈している案件ですから、そういった意味では、速やかにやりたいとは思っています。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例関連について》

【市長】 どうぞ。

【記者】 すいません。

人権条例に関連して、解釈指針というのをつくっていくのだということを成立のときにおっしゃったと思うんですが、4月から、また条例の大部分が施行されるというタイミングですから、今議会あたりで議論するのかな。そういう状況はどんな感じなんでしょうか。

【市長】 今、まさに最終的なものを取りまとめている、議会にお示しするという状況だと思います。今議会のところで、ある程度のものをお示しするという段階と認識しています。

【記者】 じゃあ、今回の議会で議論するということでよろしいですか。

【市長】 はい。

《新型コロナウイルス関連について》

【記者】 それから、コロナウイルスがこういうことになっていて、オリンピックの開催自体がいろいろ言われている中ですから難しいと思うんですけど、英国の事前キャンプというのは、かなりスケジュール的には近づいてきていますけれども。

【市長】 そうですね。

【記者】 これについて、何か連絡だとか、何かありますか。

【市長】 ええ。確か先週の時点では変更ないと聞いています。ただ、この週末から今日にかけては確認しておりませんが、報告がないということは、まだ動きがないんだらうと思います。

一方で、おっしゃるように期日が迫ってきているので、事前キャンプという意味で、そこについては非常に気にしておりますが、特段の変更はないと思います。

【記者】 かなり川崎市を挙げてというか、市民を挙げて歓迎するムードというのを、これまで醸成してきたと思うんですが、ここで来られないと、かなりあれなんで、何かメッセージなどあれば。

【市長】 いや、無事に本当に、まず開催。本番が開催できるということが大前提になるわけですが、それまでに、とにかく国内の状況を収束させるということが、何よりも第一義だと思いますので、そのために私どもの自治体としても、やるべきことはしっかりやると思います。それで気持ちよく、みんなでイギリスの選手団を、心からのおもてなしをしたいなと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【幹事社】 すいません。

新型コロナウイルスへの対応で、職員の方の時差出勤が始まっていると思います。一方で、他自治体では、いわゆる子連れ出勤といいますか、お子さんを職場に連れてくるというような取組もあるようですけれども、時差出勤以外で、何か対応って考えていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 いえ、特には。先日の本会議でも話しましたけれども、とにかく職員のところでも、影響がどういうことが出てくるのかと、そういった、もしあれば、速やかに、やはり上げて、その対策をとっていかなくちゃいけないのでと指示をしていますけれども、特段、何か、とても困っているということは、現時点のところでは把握はし

ておりません。もし必要があれば、対応していきたいと思っています。

《住みたい街ランキング2020について》

【幹事社】 ありがとうございます。

あと、ちょっと話が変わるんですけども、今年の住みたい街ランキングが民間会社から発表されて、武蔵小杉が20位に大転落してしまいました。前は、去年は確か9位で、その前は6位という1桁、トップ10に入っていたわけですけども、一気に20位に落ち込んでしましまして、これに関する御感想というのはいかがでしょうか。

【市長】 そうですね。やはり先日の浸水被害のことというのは、かなり広く、報道上も、あるいはインターネット上も報道されておりましたので、そういった意味では、その部分の影響というのが、かなり大きいだろうなと思っています。引き続き安全対策をしっかりやっていくと同時に、魅力発信にも、これから努めていきたいなと思います。

【幹事社】 かなり、他都市からすれば、他県からすれば、川崎といえば武蔵小杉というのが、1つ、人口増の象徴でもあったと思うんですけども、そこがちょっと順位を大きく下げてしまって、民間の調査ではあるんですけども、かなり大きく落ちてしまったというのは、結構、市長としても衝撃としては大きいんでしょうか。

【市長】 そうですね。かなりインパクトある数字だと思います。順位が上がっているときというのは、むしろ積極的にこのことを言ってきた立場からすると、今回下がってしまっているということは非常に深刻に受け止めていますし……。

【幹事社】 ありがとうございます。

《新型コロナウイルス関連について》

【記者】 コロナの話に戻るんですけども、市長、前回の会見のときに、経済活動とか中小企業についても心配だというお話をされていたと思うんですが、実際、こうやって国内蔓延してきていかがでしょうか。

【市長】 やっぱり人が歩いている数がすごく少なくなっていっていますし、商売にも、ものすごく影響出ていると思いますね。商業ももちろんでありますけれども、それから製造業のところでも、部品が届かなくなってくるとかって。建設業のところでも、あらゆる業種の人たちと、いろんなことを話していますけれども、かなりの部分で、今もそうですけど、その先の見通しのことについて非常に危惧をされているとい

うことがあります。そういった意味で、今後、どれだけこの影響が長引くのかというのは、かなり深刻に受け止めていますし、注視をしているところです。

【記者】 ありがとうございます。

《市民ミュージアム関連について》

【記者】 じゃあ、もう1点だけ。

市民ミュージアム。前回の会見で、例の開示されたものを見てほしいという話をしたと。御覧いただけましたか。

【市長】 拝見しました。

【記者】 率直に御感想を伺えれば。

【市長】 本当に黒塗りになっていて、ちょっと直感的な話をすると、本当に黒塗りというので、詳細見ていると、確かにちょっと説明が悪いのではないかという印象を受けました。1つは個人情報という形で黒塗りだという説明をしていたと思いますが、私から見ると、個人情報の部分は一部で、事務事業に関するところ、そこが問題だと思うんです。ですから、あの時点で非開示となっているところは、ある意味、致し方ない部分はあるんですが、その説明が個人情報の保護だと回答したこと自体が私は問題に思いました。そういった意味では、今後、プロセスを経て、事業に影響のないところという形で開示できるという部分は多くあると思っていて、しかるべきタイミングでオープンにしていくべき話だと思います。

【記者】 庁内会議のタイミングから大分時間もたちましたけれども、今の時点で塗られていた部分は、これはもう出してもいいんじゃないかというふうに言えるようなものが、もう既に出ているという認識でいいですか。

【市長】 現時点では非常に難しいと。ただ、近々庁内会議を開く予定でございますので、そのプロセスを経てから、しっかりオープンにすべきだと思います。

個人情報のところは、やはり非開示の部分ではありますが、それ以外は、それほど多くあるとは思えないというのが私の印象です。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《東日本大震災について》

【司会】 ほかはいかがでございますか。

【幹事社】 最後に1点だけ。

3月11日で東日本から9年になります。これが直前、11日前では最後の会見と

なりますので、9年を迎えて所感などをお伺いできればと思います。

【市長】　そうですね。被災された方からすると、本当にこの9年って、どういう9年だったかなとすごく思いをはせますけども、特に川崎の場合だと、福島から避難されてきた方が、いまだに川崎のところに定着してという方はたくさんいらっしゃいます。そういった意味で、川崎を新しいふるさととされた方もいらっしゃるでしょうし、また、中には、いずれまた福島に帰ろうという方もいらっしゃると思います。9年という時間でありますけれども、まだまだ帰れないという方もいらっしゃるわけで、全てが終わった話では全くないと思いますし、一部、私どもの職員も、まだ被災地に職員を派遣している状況でございますので、そういったことを踏まえて、あの教訓をしっかりと学んで、それに備えるということが、被災された、あるいは被害に遭われた方に対するお示しの仕方だと思いますので、そういった意味で、災害に強いまちづくりにしっかり取り組んでいきたいと思っています。

【幹事社】　ありがとうございます。

【司会】　ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

じゃあ、本日の会見は、これで終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355

— 了 —